



西高柳 有光 三典

随想 こころの絆

昨夏のこと、隣家に住む高齢の母(98歳)が、本を読んでいる姿を網戸越しに昼となく夜となく見かけるので問うてみると、「若鮎」60周年記念号で、しかも最終号であった。若鮎は、父が教員をしながら昭和20年から45年4月没まで子規の流れをくみ仲間や教え子と短歌を楽しみ発行した短歌誌である。また、初刊「美許等」から若鮎と改題したもので、当時中学生だった私も何号か、ガリ版刷りを手伝った記憶がある。

母親は、父が人生を詠み自然を詠み発行に没頭していた若かりしころを偲んで感慨に耽っていたようである。

「空豆の花咲き初めて雪冠る…」父は、最期に未完の歌を残した。その後は、歌縁で集われた人々の「こころ」のつながりによって継続され、95号をはるかに上回る215号を発行されたのである。

町・県内外からの会員も増えて立派に育てていただいた若鮎は、平成7年50周年記念180号に「*同人誌の多い中では稀な快挙といえよう*真摯で真心がこもっている*根底を写生におく子規の流れを若鮎の名が象徴している」と、元愛媛県歌人クラブ会長、中本幸子氏の評価を得ることができた。

私にも、若鮎は格調高い文芸誌であることがわかる。その誌が60周年記念215号となっていた。これまで、情熱を注ぎ継承してこられた誌友の並々ならぬご苦労を重く受け止め感謝する次第である。

誌友と地域の方によって建立された歌碑の刻字もうすれ年月の経過を感じるが、父は、いしづちの空のあたりで「えらい、お世話をかけましたなあー、ありがとう」と、無骨な顔に笑顔でお礼を言い満足していることだろう。

「絆」、目に見えないこころの絆の尊さを強く思わされるこのころである。



若鮎 第1号



初刊「美許等」



1歳ですよろしく



のびのび、すくすく、大きく大きくなーれ♡

父 世嗣 さん
母 千代 さん

平成18年1月27日

さいとうりょうが
齊藤凌雅くん
(社宅)



お姉ちゃんと仲良く元気に育ってね

父 勇太 さん
母 裕美 さん

平成18年1月2日

おかもとさや
岡本咲彩ちゃん
(宗意原)



元気で明るい男の子に育ってね。

父 剛志 さん
母 由香 さん

平成18年1月20日

うばがいゆいと
祖母井唯人くん
(社宅)



元気で明るく優しい子に育ってね。

父 教洋 さん
母 望 さん

平成18年1月25日

はしもと
橋本 宙くん
(宗意原)



元気で明るく育ってね!

父 正広 さん
母 早苗 さん

平成18年1月1日

みよしゆいか
三好唯加ちゃん
(中川原)



元気にすくすく育ってね。

父 知臣 さん
母 千陽 さん

平成18年1月4日

しのはらふみき
篠原史乙くん
(恵久美)

2月に1歳になられるお子さんの写真を募集しています。背景が明るい横長の写真をお持ちのうえ、1月4日(木)~12日(金)の執務時間中に役場3階総務課秘書広報係へ(先着6名まで)。